

ヴェリタス学習会通信 101

予定表カレンダー →



令和7年8月の予定

- ・月曜日 8月4・11・18・25日 大安公民館1階研修室 18:30～21:00
- ・火曜日 8月5・12・26日 員弁老人福祉センター1階会議室3 18:00～20:30
19日 員弁老人福祉センター1階会議室2 18:00～20:30
- ・水曜日 8月6・13・20・27日 ヴェリタス事務局 18:30～21:00
- ・木曜日 8月7・14・21・28日 北勢市民会館1階リハーサル室 18:30～21:00

藤原文化センターは休止中です。水曜日はヴェリタス事務局で開会しています。

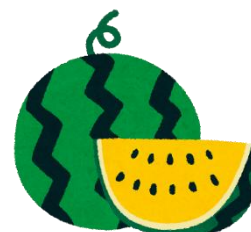
8月19日(火)は会議室3ではなく、広い会議室2です。

ヴェリタス事務局の所在地は、511-0261 いなべ市大安町丹生川上 650-1 です。

丹生川上集会所(旧丹生川上児童館・教育集会所)内です。

警報が出ている場合は休会にします。いつもその会場に来ている方にはLINEなどで

お知らせいたしますが、不安な場合はお問い合わせください。



連絡先

ヴェリタス学習会担当まつみやの携帯電話番号：090-7696-0189 (+メッセージも可能)

メールアドレス：npoveritas@gmail.com

LINE ID：m9s0bay (4文字目は数字のゼロです)

Facebookの「松宮 卓」に友達申請していただければMessengerが使えます。

メールやLINE登録をしていただいた方には、それを利用して休会連絡を行います。手数料削減協力のため、できる限りご登録ください。LINEを利用して、宿題等の画像を送ってくる子もいます。自分でできるところまでやって送ってもらうと、効果的な返信ができます。



Zoomなどの会議ツールを利用しませんか

利用が広がっているZoomクラウドミーティングやSkype, Facetime, Google Meetなどを利用して学習しませんか。興味のある方は、ご相談ください。



(画像は生成したもので、実在の人物ではありません)

メソポタミアでは物々交換から貨幣の利用に



古代の人々は、自分が生産した作物や製作物を、他の人が持っている物と交換して必要な物を手に入れていました。しかし、大きな物だと運ぶのが難しかったです。農作物だと時間が経つと交換価値がなくなることがあります。収穫してすぐのときに欲しいものがなかったときは、困ります。いつでも交換でき、価値が下がらないものと交換しておけば、いつでも好きなときに使えます。石や貝殻、日本では米、海外では麦などもこの交換用の品物として使っていたようです。

メソポタミアでは、くさび形文字が使われたと習った人もあると思います。粘土板に彫られたくさび形文字の中に、代金の支払いを銀で行ったと記されています。

また、「目には目を、歯には歯を」の内容で有名な『ハンムラビ法典』には、銀を貸し付けたときの利息は20%を上限とするとの内容や、大麦を貸し付けたときの利息は33%とするとの記述もあります。

(上の画像は、ChatGPT 制作のジググラトのイラスト)

政府が発行した最初の貨幣

紀元前7世紀ごろ、トルコ西部にリディア王国というのがありました。ここでは砂金が採れて、それを溶かして固めた金と銀の合金を楕円形にしてスタンプを押して貨幣として使いました。王や政府が発行する最古の貨幣といわれています。

(右の画像は ChatGPT 制作のリディアの貨幣のイラスト)



金本位制始まる

そのうちに、高額取引では金属硬貨さえも重たく感じられ、紙幣（紙のお金）が使われ始めます。日本では明治30年に金本位制が始まりました。政府が金を持っていて、その価値の分だけ紙幣を発行します。紙幣は銀行へ持っていくと同じ価値の金と交換してくれました。これにより円の信用度が世界的に高まったといえます。

しかし、昭和6年には金本位制を停止します。法に基づかない管理通貨制度の始まりです。第二次世界大戦下で太平洋戦争に突入すると、日本銀行法をつくって、正式に管理通貨制度を始めます。

金や銀はわかるけど、紙のお金は価値があるの？



管理通貨制度下では、銀行に紙幣を持っていても金や銀とは交換してくれません。政府が「この紙幣は書かれている金額だけの価値があります。信じて使ってください」と保証しているのです。ですからみんな信用して紙幣を利用して買い物ができるのです。(左の日本銀行のイラストは Gemini が制作したもの)

金の保有量に関わらず通貨（紙幣や貨幣）を発行できるため、発行量を増やしたり減らしたりできます。日本ではこの仕事を日本銀行が行っています。不景気になって、お金のめぐりが悪くなると、通貨の発行量を増やします。今まで回ってこなかったお金を多くの人に届くようにするためです。ただし、お金の量が増えるということは、お金の価値が下がるという弊害を生みます。やりすぎると物価（物の値段）が上がり、インフレーションという状態になります。

日本銀行は、通貨の発行量を調整し、さらに今回説明しなかった金利（お金を貸したり借りたりしたときの利息）を調整し、経済を安定させようとしているのです。

紙面の都合で、おおざっぱな説明になってしまいました。理解できない部分があるかもしれません。個別に質問してもらえば、詳しく説明します。